



## Multiple Device Messaging の設定

- [Multiple Device Messaging の概要 \(1 ページ\)](#)
- [Multiple Device Messaging の要件 \(1 ページ\)](#)
- [Multiple Device Messaging の設定 \(2 ページ\)](#)
- [Multiple Device Messaging のフロー のユースケース \(2 ページ\)](#)
- [Multiple Device Messaging における 静音モードのユースケース \(3 ページ\)](#)
- [Multiple Device Messaging のインタラクションと制限 \(4 ページ\)](#)
- [複数のデバイスのメッセージングのカウンタ \(5 ページ\)](#)

## Multiple Device Messaging の概要

Multiple Device Messaging (MDM) により、現在サインインしているすべてのデバイス間で追跡される、1 対 1 のインスタントメッセージ (IM) 交換が実現します。デスクトップクライアントとモバイルデバイスを使用し、どちらも MDM が有効な場合、メッセージは両方のデバイスに送信されるか、または CC で送信されます。既読通知は、会話の参加中に両方のデバイスで継続的に同期されます。

MDM を使用すると、任意のデバイス間を移動しつつ、IM の会話を維持することができます。たとえば、デスクトップコンピュータから IM 交換を開始した場合、デスクを離れた後でも、モバイルデバイスで会話を続けることができます。クライアントは、MDM が有効になっている場合に、ログインする必要があります。ログアウトしたクライアントには、送受信された IM および通知は表示されません。

MDM は、モバイルデバイスのバッテリーを節約できる静音モードをサポートします。Jabber クライアントは、モバイルクライアントが使用されていないときは自動的に静音モードに切り替わります。静音モードはクライアントが再びアクティブになるとオフになります。

## Multiple Device Messaging の要件

インスタントメッセージングを有効にする必要があります。詳細については、「」を参照してください。



- (注) Multiple Device Messaging を有効にする場合は、各ユーザが複数の Jabber クライアントを持つ可能性があるため、ユーザ数ではなくクライアント数に応じた展開にします。たとえば、ユーザ数が 25,000 人で、各ユーザが 2 台の Jabber クライアントを保持している場合、導入環境には 5 万ユーザのキャパシティが必要となります。

## Multiple Device Messaging の設定

Multiple Device Messaging はデフォルトで有効になっています。機能を無効にしたり、無効にした後に再度オンにしたりするには、以下の手順を使用します。

### 手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] で、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リストから、[IM and Presence サービス パブリッシャ (IM and Presence Service Publisher)] ノードを選択します。
- ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウン リストから、[Cisco XCP ルータ (アクティブ) (Cisco XCP Router (Active))] を選択します。
- ステップ 4 **Multi-Device Messaging の有効化** ドロップダウン リストから、**有効** (デフォルト値) あるいは **無効** のいずれかを選択します。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6 Cisco XCP Router サービスを再起動します。
  - a) Cisco Unified IM and Presence Serviceability にログインして、**ツール > コントロール センター - ネットワーク サービス** を選択します。
  - b) **サーバ** ドロップダウン リスト ボックスから **IM and Presence パブリッシャ ノード** を選択します。
  - c) [IM and Presence サービス (IM and Presence Services)] の下で、[Cisco XCP ルータ (Cisco XCP Router)] を選択し、[リスタート(Restart)] をクリックします

## Multiple Device Messaging のフロー のユースケース

このフローでは、ユーザ (Alice) がラップトップとモバイルデバイスで MDM を有効化した際にメッセージと通知がどのように処理されるかについて説明しています。

1. Alice はラップトップ上で Jabber クライアントを開いており、モバイルデバイスでも Jabber を使用しています。

2. Alice は Bob からインスタントメッセージ (IM) を受け取ります。

Alice のラップトップが通知を受信すると、新しいメッセージインジケータが表示されず。モバイルデバイスには通知ではなく、新しいメッセージとして表示されます。



- (注) IM は必ずすべての MDM 対応クライアントに一斉送信されます。通知はアクティブな Jabber クライアントにのみ表示されます。アクティブな Jabber クライアントがない場合は、すべての Jabber クライアントに通知が送信されます。

3. Alice は 20 分間 Bob とチャットしました。

ラップトップでチャットする一方、モバイルデバイスでは新しいメッセージを受信し、既読として処理されます。モバイルデバイスには通知が送信されません。

4. Alice は 3 人目のユーザ (Colin) から 3 通のチャットメッセージを受信します。この際も Alice のデバイスはステップ 2 と同じように動作します。

5. Colin からのメッセージには応答せず、ラップトップを閉じます。帰路で Alice は Bob から別のメッセージを受信します。

この状況では、ラップトップとモバイルデバイスの両方で新しいメッセージを受信し、通知を表示します。

6. Alice はモバイルデバイスを開き、Bob と Colin から送信された新しいメッセージを見つけます。これらのメッセージはラップトップにも送済みです。

7. Alice がモバイルデバイスでメッセージを読むと、メッセージはラップトップとモバイルデバイスの両方で既読になります。

## Multiple Device Messaging における静音モードのユースケース

このフローでは、モバイルデバイス上で Multiple Device Messaging が静音モードを有効にする手順について説明します。

1. Alice は、ラップトップとモバイルデバイスで Jabber を使用しています。Bob からのメッセージを読み、ラップトップ上の Jabber から返信します。
2. モバイルデバイスで別のアプリケーションを使い始めます。ここで Jabber はバックグラウンドで動作し続けます。
3. Jabber がバックグラウンドで実行している間、静音モードは自動的に有効になります。
4. Bob が Alice に別のメッセージを送信します。Alice のモバイルデバイスでは Jabber が静音モードにあるため、メッセージは配信されません。Alice から Bob への応答メッセージはバッファとして保存されます。

5. メッセージのバッファリングは、次のトリガーイベントのいずれかが発生するまで続きます。

- <iq> スタンザが受信される。
- 他の Alice のデバイスでアクティブなクライアントがない場合に、<message> スタンザが受信される。



(注) アクティブなクライアントとは、過去 5 分間に、使用可能なプレゼンス ステータスまたはインスタント メッセージのいずれかを送信した最後のクライアントのことです。

- バッファの制限に達した。

6. Alice がモバイルデバイスの Jabber に戻ると、再びアクティブになります。バッファとして保存された Bob のメッセージが配信され、Alice から閲覧可能になります。

## Multiple Device Messaging のインタラクションと制限

次の表では、Multiple Device Messaging (MDM) 機能との機能の相互作用および制限をまとめています。

表 1: Multiple Device Messaging のインタラクションと制限

機能	連携動作または制限事項
Cisco Jabber クライアント	MDM はバージョン 11.7 以降のすべての Jabber クライアントによりサポートされます。
グループ チャット	グループチャットは、どのデバイスからサインインした MDM ユーザーでも利用可能です。
メッセージ アーカイバ	MDM は、メッセージ アーカイバ機能と互換性があります。
マネージド ファイル転送	ファイル転送は、どのデバイスからサインインした MDM ユーザーでも利用可能です。
Expressway 経由でのモバイルおよびリモートアクセス	Cisco Expressway 経由で IM and Presence Service に接続するモバイルおよびリモートアクセスの場合、MDM を使用するには、少なくとも Expressway X8.8 が実行されていなければなりません。

機能	連携動作または制限事項
Server Recovery Manager	フェールオーバーが発生した場合、Multiple Device Messaging 機能により、IM and Presence サービスでサーバ回復に遅延が発生します。Multiple Device Messaging が設定されているシステムでサーバのフェールオーバーが発生すると、フェールオーバーの時間は通常、Cisco Server Recovery Manager サービスパラメータで指定された時間の 2 倍になります。
サードパーティ製クライアント	MDM は、この機能をサポートしていないサードパーティクライアントと互換性があります。

## 複数のデバイスのメッセージングのカウンタ

Multiple Device Messaging (MDM) は、Cisco XCP MDM カウンタ グループから次のカウンタを使用します。

カウンタ名	説明
MDMSessions	MDM が有効な現在のセッション数。
MDMSilentModeSessions	サイレントモードにおける現在のセッション数。
MDMQuietModeSessions	静音モードにおける現在のセッション数。
MDMBufferFlushes	MDM バッファフラッシュの合計数。
MDMBufferFlushesLimitReached	バッファサイズ全体の上限に到達したことで発生した MDM バッファフラッシュの合計数。
MDMBufferFlushPacketCount	最後のタイムスライスでフラッシュされたパケットの数。
MDMBufferAvgQueuedTime	MDM バッファがフラッシュされるまでの平均時間 (秒)。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。